

第8回クラブ内ビデオコンテスト

第8回クラブ内ビデオコンテストが 2月23日（土）の定例会で行われました。出席会員は14名でしたが、発表作品は欠席の1名からの分を含めても9本とやや少ない状況でコンテストが行われました。

コンテストでは各作品を発表後に意見交換せずに続けて鑑賞し、全作品の発表終了後に全員の投票により最優秀賞1名、優秀賞2名の入賞3作品を選出しました。司会は渡辺代表幹事が務めました。

1. クラブ内ビデオコンテスト発表作品

最優秀賞 黒沢 真さん「旅順」8分58秒（HD）



旅順は日露戦争の勝敗を決めた激戦地として知られています。市内各所、東鷄冠山北堡壘、203高地、水師營を訪ねました。

優秀賞 加藤 須満子さん「お父さんのねがい」7分28秒（HD）



訪問医療を受けているお父さんが高原の温泉に行きたいと云う願いを叶えてあげることができた。子供達の協力が大きかった。

優秀賞 伊藤 幸晴さん「燃ゆる秋」3分（HD）



NHK 多摩アマビクラブの撮影会で御岳溪谷遊歩道で撮った風景をつないだ作品で、久しぶりにナレーションも入れてみました。

渡辺 實さん「田んぼの学校」6分29秒



市民環境団体主催の「田んぼの学校」で子供と保護者が参加した田植えの様子を取材した。初めて泥田に入ってイネを植え、はしゃぐ子供たちを微笑ましく撮影した。

古谷 毅さん「復興支援の旅」6分47秒



東日本大震災の復興支援に少しでも役に立ちたいと福島県のリゾート施設に旅行してきた時の記録です。

飯山 一伸さん「嵯峨野トロッコ列車の旅」3分30秒



TVのCMを見て、昨年11月下旬に京都・嵐山のトロッコ列車に乗り、二尊院の紅葉を見に行きました。すばらしい京都の美に出会えました。

菅原 富雄さん「光の幻想公園」5分30秒（HD）



イルミネーションの幻想的な様子を撮影した映像詩です。関東屈指の人工美を追求しました。

岩沢 初男さん「房総へ花摘み夫婦旅」7分50秒



新聞広告のバスツアーで房総へ花摘みに出掛けた。1人2千円高い良い部屋

を申し込んだ。古いけれど窓からの海の風景がとても良く、早朝に日の出風景を撮影した。

菅原 正三さん 「入間航空祭」 10分



最近の作品が無く、ビデオを始めた頃のもので、航空自衛隊唯一のアクロバットチームブルーインパルスの見事な飛行に撮影しながら感動しました。

2. 交流クラブの会報類を回覧

札幌支部報 2月号、しずおか SAVCS 通信 1月号、NHK 事務局通信 No. 102号を回覧しました。

4月例会のお知らせ

4月27日(土) 午後1時30分～5時

2013 年度最初の例会です。心新たに作品の発表と講評・合評で切磋琢磨しましょう！

ことによると、アドバイザー陣の一部に異動があるかもしれません。

◎ 会報はホームページでご覧ください！

会報はクラブのホームページ (HP) でご覧ください。「コンテスト」入賞作品の動画もご覧になれます。

HP の URL: <http://www.hotozuka.com/nhktama/>

(編集後記) 厳しい寒さの冬でしたが、春一番の後は急に気温が上がって、遅れていたウメが咲いたと思ったら強風で散ってしまい、アツという間にサクラの早い開花が報じられました。

ふと思い立って最近 5 年間の定例会出席状況を調べました。年度、(会員数)、例会平均出席者数の順です。平成 20 (31 人) 16.9 人、平成 21 (29 人) 18.0 人、平成 22 (30) 16.8 人、平成 23 (33 人) 18.6 人、平成 24 (31) 14.8 人。今年度になって気にしていた例会での出席者数が少ないことが事実でした。会員の高齢化が進んでおり、例会常連の方々がおぼつと欠席されるようになりました。

これからは過ごしやすい良い季節となりますので、お互いに健康保持に留意してビデオライフを楽しみたいものです。
(渡辺 實 記)

みんなの広場



一通の手紙

古谷 毅

十九年も一緒に山登りをしてきた仲間が亡くなった。ある日彼の娘さんから手紙が来て、それには葬儀の際に私の作ったビデオを上映して父がこんな楽しい山登りをしていたのかと初めて知ったと書かれていた。生前父は家族には山の話をしなかつたので、ビデオを見て山の美しい風景や仲間との下山して酒盛りして至福の一時を過ごしていたことなどがわかった。素晴らしいナレーションや BGM など私が作ったビデオが遺族をなぐさめてくれ、ビデオというものに深く感謝すると書かれていた。それを作ってくれた私に深く感謝すると書かれていた。それを作って



家族の介護

加藤須満子

私はビデオの趣味を生き甲斐に充実した日々でしたが、家族の介護に直面することになりました。53 年余り苦楽を共にした主人の為に。誠心誠意悔いなくと向き合って二年目。一喜一憂の毎日でした。離れている子ども達の支えも大きく有難いです。ふと立ち止まって、自分をみつめたら身も心も疲れ切っている自分がいいます。これからは訪問看護の力や子ども達の更なる協力を頼って、ビデオに目を向ける時間を作り、気分転換して後悔のない介護に打ち込みたいと実感しています。